

発行所 鹿児島県始良郡始良町役場
 発行人 池田盛孝 編集人 大村一男

(印刷所)
 キング堂印刷所

町の人口動態	
(4月1日現在)	
世帯数	6,458戸
人口	男 10,569人
	女 12,130人
22,699人	
3月の	出生 23人
	死亡 9人
	転入 204人
	転出 544人

明治百年記念植樹祭

始良町では明治百年を記念して上名中之城の町有地、公団造林地一七ヘクタールにヒノキ二万本、スギ一万五千本を植樹することになり、三月二十九日町長はじめ議会議員、森林関係者約九〇名が参加し植樹祭が行なわれました。

そのあと植樹にうつり約一千本を植えおわり、深々とした美しい緑の森になることを期待し山をおりました。

今後町では、木材の生産、国土保全、環境緑化の運動をすすめ、毎年造林事業を推進することになっております。

(写真は町長の植樹風景)



高年令者に敬老年金支給

かねて敬老年金について研究を進めておりましたところ成案を得ましたので3月議会に提出可決されました。

はじめてのことであり財政事情も考慮し対象者が高年令、少額になりましたが町の意のあるところをおくみとりください。今後は支給年令の低下、増額も考えております。

次にこの条例の要点を説明いたしますと

1.本町に1年以上居住し(住民登録)満88才以上の者に支給する。

2.支給基準日は9月15日敬老の日とする。

3.その年の支給基準日までにまたは支給基準日以降に受給資格を得た者で次の支給基準日までに死亡したときは年金の額を一時金として支給する。

4.この年金の額は2,000円とする。

以上のとおりですが町でも対象者について調査の上支給しますが3項の死亡の場合もれるおそれもありますので、お気付のときは至急申請してください。

昭和43年度予算 三億六千万円

議案 35件・陳情 7件を上程

教育行政・産業経済を重点に

◎町長所信を表明 ◎

施政方針

昭和43年度の町の施政方針と、その予算案の概要をご説明申し上げ、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、本町も合併後既に13年目を迎え、現在では県内でも先進的な規模の町に成長して参ったのであります。これも一重に町民各位が町の発展と繁栄を期することの重要さを認識されて常に理解ある協力をいただいたこと、町議会各位が大局的な立場にたつて深いご理解とご協力をいただいた賜であると感じ、私は衷心より慶びを感じるとともに深甚の敬意を表する次第であります。私はこの固くゆるぎなき基礎の上に立つて益々本町の発展と繁栄を期し、町民の福祉増進を図って行きたいと思

います。もとより非才微力ではありますが良心と誠意においては人後におちない自信を持っておりますので、謙虚に世論に応え、筋のおつた公正な町政の確立を「モットー」に明るく町政を祈念して懸命の努力をいたす覚悟であります。昭和42年度の地方財政は、国が打ち出した、財政硬直化の影響により現段階では国の財政規模はも

とより国債発行の規模や、その額の内容も確定されていない実情からして必ずしも明るいとは思えません。むしろ昨年比し後退の感があります。

最近の町村財政のすう勢は、才入の伸びなやみと年々増高する義務的経費等による財政需要面の増大によって益々逼迫しつつあります。本町の財政力にもおのずから限度があり従来、山林資源に依存した感がありましたが、現在におきましては、この資源もなく困窮の感を深くするものであります。このような厳しい情勢に対処して行くには自主財源の確保を図って行くことは勿論であります。事務の合理化と行政効率の向上を図るために機構や人事管理の面にも再検討を加えて行きたい所存であります。

特に本年度は財源的にも充分な見通しもつけ得られず、また国の予算が確立されていない関係もあり、国県支出金や起債枠等の範囲も、つまびらかではありませんので不急な新規事業等は極力これを押え、冗費の節約を図り、才出全般に亘る節減合理化につとめ健全財政の確立を図ることに意を注ぎました。以上のような考え方に立ち施策

を進めることに最善の努力をはらって参りたいと存じます。

先ず重点施策として次の六項目を取りあげて参りたいと存じます。

第一に上水道事業の継続施工

第二に都市計画事業(重富地区)実施の促進

第三に教育行政(統合)の充実

第四に産業経済(米増産)の振興

第五に道路行政の整備保全

第六に福祉行政(老令年金)及び環境衛生の推進

一、上水道事業

本町の上水道事業は、昭和40年より3ヶ年の継続事業として着工したものである。各戸給水も昨年8月より実施し、現在脇元、平松地区の給水工事を実施中であり、計。約一、五〇〇戸程度の給水が見込まれ一応初期の目的を達成できたことは喜ぶべきでないが、更に本年度は当初計画にもれた三船、平松の残地区に給水すべく、昨年12月拡張工事の認可を受け、本年度より引続き3ヶ年計画で工事を実施することにしました。この計画により下場地域の全域に亘り水道が敷設されることになり、投資的経費の増大は財政硬直化の折柄一般会計に相当のしわ寄せをもたらすのであります。しか

し本町の将来を想うとき止むを得ないと考えられるのであります。本年度から愈々地方公営企業法の適用を受けることになり、これに伴い2ヶ所の簡易水道も併せて本年度から企業特別会計として適用することになつていきたいと思います。

本年度は総事業費六二、六二六千円を計上し一般会計より一二、〇〇〇千円繰出し、又事業収益金(水道使用料)として九、八三〇千円を計上しました。今後はこの拡張工事の早期完成を図るとともに、給水の普及徹底を図り、企業運営の円滑に留意し町民の要望に応じていききたいと思ひます。

二、都市計画事業

昨年度は主要街路の計画を推進して参りましたが、現在九州縦貫高速道及びバイパス線等がはつきりせず伸びなやんでいきましたが、本年度用地の取得等に着手する予定であり、この事業と相俟つて重富地区の計画を促進し、主要街路等の測量に着手し事業を推進するために取りあえず六、〇五九千円を計上しました。

三、教育行政

学校教育の重要性に鑑み、その内容の充実を図ることが何よりも重要なことであり、本年度もその充実には力を注ぐことにしました。また教育にたずさるる教職員の資質の向上を図るために本年度も研修会等を行なうことになつていきました。

施設工事としては本年度成美、堂山、木津志小学校の統合に全力を傾注し、敷地の造成及び鉄筋校舎並びに便所の新設をなす外、各

校の補修等を行うことになりましたこの経費として三八、一七七千円を計上しました。中学校にあつては、重富中学校職員便所建設ほか、各校補修等を行なうこととしてこの経費八六八千円を計上した。

本年度小、中学校とも、それぞれ予想される新規な施設等も相当あるが先程のべた通り、本年度は統合校に集中した。また長年の懸案であつた給食婦の身分取扱いを臨職とし本年度より給料制とした。なお今後財源等をよく検討して逐次充実して行くことに努めたいと思ひます。

2. 育英事業

奨学資金制度は昭和32年度からはじめられ、昨年度まで一七人が、この制度の恩恵に浴して参つた。この制度は今後も続けることとして優秀な恵まれぬ生徒の育成につとめた。

また昨年度から実施した農業自営学生に対する奨学資金も続けることとし、今年も奨学生は一人、一、三〇〇円、農業自営は二人、二、〇〇〇円とし、計二十八名分、四五四千円を計上いたしました。

3. 幼児教育

最近、幼児教育は特に重要視され、心身教育の基礎は幼児教育にあることは論を待たないところであります。本町においては幼児推園や保育園などの充実には現在まで努力して参りましたが、今後、その質を考え充実にについては考慮して行きたいと思ひます。

4. 社会教育

社会教育は最近極めて重要と

なつてきていますが、特に成人教育や婦人教育等が近年高まりその割合も活発化しつつありますが、今後とも更にその研修には努力したいと思ひます。

青年教育は最近では、町に残留する青年が極めて少なくなつてゐるため、青年団の活動も困難な事情にありますので努めて残留青年の教育に力を注ぐことにいたしましたと思ひます。

本年は明治百年に当り、本町としては郷土史の編集をこの記念事業として取上げ、本年10月末には発刊する計画であります。この経費として一、四八三千元を計上いたしました。

また松原塩田跡に努力されし先輩の記念碑を建立することにいたしました。この経費一〇六千円を計上いたしました。

5. 公民館活動

公民館の活動は町財政の啓発に大きな役割を果たす力となっておりますが、本年度も町の重要施策のP・Rには更に努めることにいたしましたと思ひます。これらの経費に四三七千円を計上しました。

6. 保健体育

最近、町をあげてのスポーツがさげばれておりますが、このスポーツ教室の役割も年毎に重要視されるようになりました。これも指導員各位の努力と指導のよろしきを得た賜であり衷心より敬意を表するものであります。本年度もこの経費に七四二千円を計上しました。

四、産業行政

本町は農業が主体であります。

農業の振興が産業開発の基礎となることは、今更申すまでもないところであります。農業経営の改善によって農家所得が向上され、これにより生産基礎の整備もなされ、土地条件の整備も実現されるのであります。

現在、産業政策の中で最も難しい問題をかかえてゐるのが、農林水産業政策であります。本町においても主幹産業である農林業の振興策には人的資源の確保と流通面の改善が大きくクロソブツツさ、これらの対策に努力を傾けてゐる現状であります。

そこで限られた予算の中で最大の行政効果を挙げるためには、本町の立地条件からして地域を区分し、その特性を生かした産業政策を推進して農家所得の向上と生活の安定を図って行くことにしたいと思ひます。

先ず基本的構想として

- (1) 経営の合理化と生産技術の向上を図り主産地の形成に努力していききたいと思ひます。
- (2) 自立経営農家の育成を助長するために、農村三作運動を更に推進していききたいと思ひます。
- (3) 農業構造改善事業による養鶏事業の経営管理の技術向上により確実なる所得の増大を図って行くことに努力したいと思ひます。
- (4) 上場地区に和牛、養蚕、たばこ、造林の振興と抑制をさい栽培を奨励し、下場地区に和牛の肥育、養豚及び近郊そさい(水耕栽培)園芸の振興を図って行くことにしたいと思ひます。

- 1. 一般農業部門(耕種農業)
 - (1) 主産地形成
構造改善地区を中心とした町一門の施設園芸振興会を中心として近郊そさい(水耕栽培)の主産地をつくり、この補助金(グループ育成、品種試験、新種導入)として一〇〇千円を計上いたしました。
 - (2) 水産の増産対策
苗代の病害虫防除薬剤費並びに増産対策として本年度より町、農協、共済が一体となり、推進協議会をつくり、この事業に取り組み、推進することになりました。この経費として九五〇千円を計上いたしました。
 - (3) 自立経営農家及び農業後継者の育成
本町では真に自立経営農家として挙げられる農家は僅か二〇戸位であり、農家の経営規模及び習性は逐次専業から第一種、第二種兼業農家に移行しつつありますが、このような現況下において経営規模を拡大するには種々問題があり、鹿児島市の近郊にある立地条件からいたしましたも、兼業農家型の自立経営農家育成も考えられるのであります。

この運動の普及実践を図りたいと思ひます。これらの関係経費として一〇〇千円を計上し、機能集団の育成、農村環境の近代化、生活環境の整備、家庭の日のP・R並びに親子契約農業を推進していききたいと思ひます。

2. 畜産の振興

(1) 養鶏事業については、農協と連絡を密にし、多頭羽飼育の奨励と経営管理の指導に重点を置き、特に(ニューカッスル)の予防対策については徹底を期していききたいと思ひます。

(2) 和牛、豚の貸付事業は引き続き実施し今後町内で肥育する仔牛は町内産で賄い、優良仔牛の町内引止策を講ずることにはしたいと思ひます。これに要する資金として八五〇千円を計上しました。また、今後は和牛、豚の生産と肥育については更に多頭飼育を奨励して所得の向上を図りたいと思ひます。

(3) 草地造成と牧野改良事業も更に促進を図り和牛の増産に努めることとして、この牧草種子代として一五千円を計上しました。

(4) 飼料の値上りによる経営難が予想されるので、技術会の畜産部門を中心に経営技術の研修並びに自給飼料作物の作付を奨励し生産コストの引下げに努めることにしました。

3. 農業金融及び利子補給について

農業制度資金を有利に運用することにより農業が近代化され、所得の向上が望まれますので、本年度は資金の種類、貸付の方法等について広くP・Rしていききたいと思ひます。

補給及び元利償還金に充当されておりますが、本町産業振興のため継続して補給を実施していくこととして、この補助金や補給金として六、二五一千円を計上しました。(この内県補助金三、四〇五千元)

- 農業金融貸付高(42年度融資金高)
 - 養鶏資金 一三、四二七千円(二分五厘)
 - 農業近代化資金 七三、七五八千円(五分)
 - 農業振興資金 五〇、〇〇〇千円(一分五厘)

4. 耕地関係

(1) 土地改良事業については、農業生産の基礎となる農道、水路等の改良は急務であり、特に北山、木津志等の上場地域において後進性がみられますので本年度各地区から希望改良等六ヶ所の県事業の希望ヶ所については県の予算枠の決定を待つて事業の推進を図っていききたいと思ひます。

(2) 北山地区県営シラス対策事業について(農地保全事業)
昨年度約一、三〇〇千円(地元負担金六一五千円)の事業費で牟田山線入口の(字郷の下)から北山中学校に至る資材運搬道路、排水路集水路等が完成しましたが、この事業はシラス地帯の農地の流失、崩壊防止を目的とした事業であり、三ヶ年計画で実施されるものであります。が丁度本年度が完成年度であり、できることなら来年度も引続き事業の進めよう今後努力したいと思ひます。

この地元負担金(事業費の五%

として九二五千元を計上しました。なおこの数年に亘り農免道の運動をしてみました。が本年度は何とか実施できるような努力したいと思ひます。

(3) 農業構造改善事業について
現在換地登記を含むすべての事務を行なっていますが、精算事務その他登記関係に難問題が残されておるので、これを完全に終えるよう努めたいと思ひます。この残務経費として一、二千元を計上した。

5. 林務行政について
(1) 計画造林の実施と撫育の完全実施

基本財産造成のため本年度は新植一五ha、補植三haの造林を行ない、幼幼林に対しては撫育の徹底を図り水源林については保安林改良事業を推進して公園造林に適する林地については積極的契約を締結して、町有林及び民有林の造成を図っていききたいと思ひます。このため造林費として、四、〇九八千元を計上しました。

(2) 個人別山林経費台帳の整備
森林経費の実態を把握する大切な台帳であり、加除修正し更に精度を期するため森林組合等と緊密なる連絡をとり本年度も引き続き実施して完成したいと思ひます。

(3) 経営指導について
一般民有林の個別経営計画の樹立及び指導を図り、森林病虫害の調査並びに防除計画を樹て、松くい虫の駆除を図るとともに特殊林産物(竹林、しいたけ等)の改良事業を推進し併せて金融事務の円滑化をP、Rしていき

6. 林道整備について

牟田山林道新設事業として一〇、五一〇千元を計上し、他の林道補修に二〇〇千元計上しました。この外、昨年度より施工中の堂園線については本年度で完成する予定であり、承認のあり次第着工するよう考慮したいと思ひます。

7. 林道災害復旧事業について
林道災害復旧事業については三九災、長野林道災害復旧事業として一、四一五千元を計上しました。

8. 本町の産業振興は一人町のみでは振興し難いので、今後も農林各種団体と緊密な連絡をとり振興を図っていききたいと思ひます。

9. 商工関係について
本町商工会の振興については、各商工業者の経営改善や中元及び年末売出し資金斡旋を積極的に行なうとともに、従来とりつけた街灯が故障で点灯しないので、少額ではあるが補助することにし、育成費その他について三八六千元を計上しました。

10. 観光について
観光事業は本町発展のために極めて重要なことであり、町民の深い理解を得るため町観光協会の充実を図るとともに、あらゆる観光地を町外にもP・Rする意味で、パンフレット等によって啓蒙に努めたいと思ひます。また豊富海水浴場も年々利用者が増加の一途をたどりつつありますから、この管理については

昨年同様、豊富海水浴場協会に委任したいと思ひます。なおこの海水浴場に本年度防潮堤を国費で建設して貰うことになっております。

11. 水産振興について
湾内遊魚群の減少により沿海漁業は年々衰微の傾向にあり、獲る漁業から養う漁業へと転換しつつあり、最近真珠母貝漁業が軌道にのった現在、これが育成助長に努力するとともに漁協の育成にも意を注いでいきたいと思ひます。

五、建設行政
1. 道路の整備
産業の開発、地域振興の整備は道路の整備保全にあることは今更論を待たないところであります。本年度は新設改良と併せ既設道路の維持補修に努めたいと思ひます。そのためには失業対策事業の砂利採取機をフルに動かす補修班の活用を図っていききたいと思ひます。本年度は維持修理費として八五三千元を計上しました。また、失業対策事業の高度利用を期する上からも能率度の落ちたトラックの買替えをすることにして、この経費一、一〇〇千元を計上しました。

また、道路の改良としては路面舗装と突角の改良、側溝の整備や路面の拡幅など局部の改良を図ることにして三、五〇一千元を計上しました。なお、本年度から実施される自動車取得税(県税、県庁町税)が新設されましたが、現在のところ額が不明であり判明次第道路財源に充当していききたいと思っております。

2. 橋梁の新設及び維持保全
町内の大橋は、ここ数年の間にほとんど永久橋に架替えられてきました。未だ残された小橋も数多くありますが、本年度は緊急度合を勘案して必要に迫られたものの改良と修理を図っていくことにして一、三六五千元を計上しました。

3. 災害復旧事業
公共土木災害復旧事業として41災鍋倉川護岸、東川護岸、樋ヶ宇都川護岸、永瀬川護岸、触田川護岸、中瀬川護岸、大山川護岸、瀬戸段ノ飛野線をそれぞれ施工することとして、その復旧費五、五四六千元を計上しました。

4. 失業対策事業
失業対策事業は最近就労者数の減少によりその事業量にも制限をうけつつあり、今後の新設事業等にも相当の影響が予想されますので機械力の高度利用を図っていききたいと思ひます。

本年度の事業路線としては七路線を計画、就労者数一〇五人で年間二六、七二〇人で積算し、一般失業対策事業費として三二、八五三千元を計上しました。補修班は本年度も編成して道路の維持保全を図ることとし、特に本年度からは砕石場のめどもついたので大いに活用したいと思っております。

5. 地籍調査
地籍調査は昭和三一年度から実施しており昨年度までの実施区域面積は八三、四八ホウキロであり本年度は大字北山の山花地区を六、四五ホウキロの面積を実施する予定であります。

この経費八、〇七八千元を計上しました。後二年で全町の調査が完了する予定でその成果が期待されます。残地区は約一一、〇ホウキロであり、これに伴う認証事務も順調に進捗してあります。

六、福祉行政
一、国民健康保険

一昨年より被保険世帯に七割給付を実施して参りましたが、その後医療費の値上り等により保険税の引上げを余儀なくされたところでありましたが、本年度も一世帯当り九、四四八円程度に引上げを計画せざるを得ない現状であります。また、直営診療所においても特に診療収入の伸びなやみと人件費の増高によってその経費は苦しくなり今後の運営に苦慮しているところでありました。今後とも慎重に検討を加えていくことにしたいと思ひます。

二、国民年金
年金制度が発足してより町民の福祉に寄与するところ大であります。国の施策にそってこの制度適用に努力して参りました。そのため昨年度は九八、七％の上昇を示したことは誠に喜ばしい限りであります。

今後とも完全な実施に努力したいと思ひます。この事務経費として一七、三三四千元を計上しました。このうち印紙代が一四、六二七千元になっております。

三、老人福祉
老人福祉法が制定されて数年、この間老人クラブの結成も既に二九ヶ所に及んでいます。健康調査の内容や施設等も今後更に充実するよう努力したいと思ひます。本年度より少額ではありますが八

八才以上の老人に年金として二、〇〇〇円を給付することにし、また記念品等についても支給するためにこの経費二六六千円を計上しました。

四、低所得層の生活更正

この階層の施策については、国も逐年充実を図りつつありますが、未だ低所得層の生活は苦しく、本町の生活保護受給世帯は約二五八世帯に及んでいます。然し、漸次減少の傾向を辿りつつあることは誠に喜ばしいことであります。

所得を向上し更正するために資金を必要とする者には母子福祉資金その他更正資金等の各種貸付制度の活用を指導あせんでして自立更生を促進していきたいと思えます。

五、児童福祉

保育園は幼児を持つ低所得層の就労を安定させるとともに、幼児の教育はその保育上極めて重要でありますので、これらの整備についても今後更に検討を加えて行きたいと思えます。

七、保健衛生

一 環境衛生

環境の整備充実については、国の施策も年々強化されつつありますが、本町においても中小企業の誘致や住宅団地の造成に伴い住宅の密集度が高まりつつありますので、今後は特に衛生知識の啓蒙普及には意を用い、衛生協会等の協力を得て清掃や美化運動を推進し環境の改善に努め、住みよい町作りにつとめたいと思えます。

この外本年度も殺虫剤や防疫剤等の購入経費やその他これに要する経費として三三三千元を計上しました。

二、予防対策

腸バラの予防接種をはじめ日本脳炎、百日咳、ジフテリア、インフルエンザ、小児麻疹等の各種予防接種の普及に力を注ぎ、予防の万全を期し、また結核についても予防に一段の努力をしたいと思えます。最近結核で死亡する人は少なくなつてはおりますが、感染者は依然として多いといわれていま

す。本町は最近結核に対する認識が深まり、間接撮影の検診は年毎に上昇し例年九〇％を上廻る成績を収めつつあることは喜ばしいことであります。本年度も各種予防接種や検診の啓蒙に努め、町民全員を受診を目標に普及促進を図っていききたいと思えます。

予防接種ワクチン代や間接撮影等の経費として四、一八五千元を計上しました。

三、塵芥処理施設

塵芥処理対策として一昨年度汚物清掃運搬車を購入して急速な処理をしておりますが、当面する問題は焼却施設であり、これについては屎処理場同様隣町等と共同施設も考慮されますが、これも広範囲に亘るので早急に解決し得ない問題であり、昨年度より用地代として計上し、現在その交渉の段階で結論はでていませんが、今後用地取得のあかつきには財源とららみあわせて本町単独でも施設をした

いと考えています。本年度はこの用地確保のため二五〇千円を計上しました。

八、消防行政

消防の機動化とその充実を期するために本年度は老朽した松原、

上名分団のポンプ積込車の買替えをすることにしてこの経費九〇〇千円を計上しました。

この外、警備台一基、防火水槽大山分団の車庫新築を計画し、この経費一、四六〇千円を計上しました。

なお、本年度国費をもって北山中学校上に望楼(林野庁)を建立してもらふことになり、今後の活用が期待されます。また、団員の士気を鼓舞する必要から夏服及び地下足袋の支給をすることにしてこの経費一四四千元を計上しました。

九、一般行政

健全財政の確立

町村財政は年を追うごとに逼迫して参り、深刻な状況下にありますが、これは財政需要の増大に比し財政収入の伸びによる鈍化に基因しての例外ではありません。

本町もその例外ではなく、義務的経費等が増高した上に水道事業の建設に伴う繰出しや、小学校統合による経費の増もあって財政的には全く余裕がありません、才入に見込み得る財源はほとんどこれを計上して全く弾力性のない予算であります。

然し、町の発展と住民福祉の増進のためにはあくまでも財政の健全性を失わない範囲内において財政の運用を図り、冗費を節約して予算の効率的な使用を図り財政の健全な確立を図ることに最善の努力をいたしたいと思えます。

なお、一般財源として町税を六八、五七〇千円、地方交付税を一四五、〇〇〇千円を見込計上しました。本年度一般会計の予算総額として三六一、九一四千円の計上

となりまし

また、本年度より実施される住民基本台帳の作成費として七四〇千円を計上しました。この台帳の完成により住民票はもとより選挙事務、年金、福祉等一つの台帳により今後処理されることになり、事務能率ならびに住民サービスの点において万全を期せられると思われ

ます。なお、職員の志気の高揚に努めるために次の五則を定めました。

- 一、仕事に勇気と自信と責任を持つ。
二、進んで仕事に取り組み、人に おくれるな。
一、能率をあげることに創意工夫を怠るな。

一、常に公僕であることを忘れるな。
二、面接は相手の身になって親切であれ。

以上の五則をモットーにして今後住民のサービスに努めていきたいと思えます。

十、税務行政

一、適正な課税

適正な課税は町民の信頼を得られると同時に納税の意欲も向上することになるが、それには何よりも先ず課税客体の確実な把握が大切であります。

町村財政が逼迫しつつある現在においては先ず税源の確保を図り町財政の運用に支障のないよう努力していききたいと思えます。

二、徴収の徹底

徴税については町民の納税意欲と協力によって最近相当の実績を

挙げつつあることは誠に喜ばしいことであります。

今後も更に滞納整理の面においても今一段の努力をほらい徴収の確保を図っていききたいと思えます。従来の納税報償制度は本年も、そのまま存続することにして予算の計上を図りました。

以上申し述べ、43年度の施政方針といたします。

町役場の

人事異動(四月一日付)

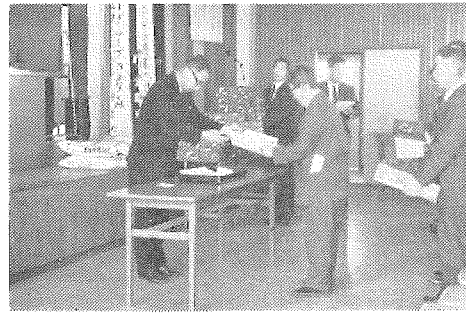
() 内は旧

- 税務課長(建設課長) 羽幸 近
福祉課長(住民課長) 酒匂 千歳
経済課長(税務課長) 折口 武次
建設課長(福祉課長) 神ノ口定二
住民課長(議会事務局長)
鳥居 正男
議会事務局長(経済課長)
永倉 昇
兼経営指導係長) 福元 実

- 総務課管財係長(経済課林政係長)
兼経営指導係長) 福元 実
経済課林政係長兼経営指導係長
功
総務課(北山出張所) 内村 格次
北山出張所(住民課) 西郷 光雄
教育委員会(建設課) 山下 正秋
福祉課(住民課) 山崎 成子
総務課(経済課) 前田 律子
任用
▽総務課 田口幸一▽税務課 前田 敏作▽建設課 竹下清和▽水道課 山藤澄雄▽同 永田成秋▽建設課 野村光明

農村三作運動推進大会開催

去る三月二十七日午前十時より始良町農協大会議室で農業技術交換競技会を開き、午後一時より三作運動大会を開催、町長のあいさつのあと、中津野部落の柳迫光弘



君の「農業後継者としての将来の目標」上麓みのりグループの安楽たつ子さんの「みのりグループの歩み」と題しての体験発表があり多大なる拍手をあげ、そのあと特別講演として農林省鹿児島統計調査事務所作物統計課長清水強先生の「収量成立過程からみた本県の稲作」の講演で本県の稲作は優良品種の徹底した改良をなすべきだとのお話がありました。

そのあと優良農家に対し賞状、賞品が多数贈られました。優良農家褒賞者は次のとおり

1. 米作の部
 - 豊留 米松勝男、楠元 吉中春美、豊留 西別当太次右衛門、大山東 谷口春男、中津野 今村徳吉、豊留 盛満貢、中川原 新園武徳、石ヶ迫 小川マツエ、船津上 森山久夫、中津野 井ノ上親男、高樋 酒匂弘和、上麓 吉村良夫
2. 養鶏の部
 - 山野 中島昭、並木 林義治、上場 柿内秋光、寺脇 内村とみ星原 古川フミ、春花 重森秋義
3. 和牛生産の部
 - 中武光、堂園 上脇秋義
4. 養豚の部
 - 堂山 福岡竜真、堂山 岩井田道則
5. 酪農の部
 - 楠元 山路敦、片馬場 篠原秋夫、十日町 徳九一光
6. たばこの部
 - 木津志中 池田良光、上脇 甲斐正行、鍋倉 和田孝夫、上脇 小川内武男、板ノ口 横山英人
7. 養蚕の部
 - 堂園 上村敬二、高牧 森盛雄
8. 園芸の部
 - 高牧 鶴田秀雄
9. 農業生産グループの部
 - 脇元下養鶏グループ 代表者 久保武夫、上麓みのりグループ 代表者 安楽タツ子
10. 森林の部
 - 上脇 有村山人、内甕 神宮司盛彦、馬場 井尻敏子

そのほか町内に24の生活改善グループが出来ております。このグループにも賞状と金一封が贈られました。

船津下 小田原直行、東原東 春山昭二、中津野 柳迫光雄

木津志中 池田良光、上脇 甲斐正行、鍋倉 和田孝夫、上脇 小川内武男、板ノ口 横山英人

堂園 上村敬二、高牧 森盛雄

高牧 鶴田秀雄

脇元下養鶏グループ 代表者 久保武夫、上麓みのりグループ 代表者 安楽タツ子

上脇 有村山人、内甕 神宮司盛彦、馬場 井尻敏子

そのほか町内に24の生活改善グループが出来ております。このグループにも賞状と金一封が贈られました。

明るく正しい選挙宣言町の 標柱建設によせて

政治に無関心であってはなりません。終戦直後かなり多くの人が選挙によって、これまでの生活を根本からよくしていくことが出来ると思われています。わたしたちは選挙というものに大きく期待をかけていました。おなかをすかし、ボロをまとい、住むに

家もない状態のときには、なんとかして政治をよくしなければという意欲もあったのですが、すこし身のまわりがよくなると、関心がよそにそれていってしまふ。いくら熱心にやってみても現実はおもいうようにならない。またいい人物をえらびなさい。この一票

はあなたの責任だといわれても、じぶんのちからでは、どうにもならないという気持ちになるわけですが、いまの国会は国権の最高機関であり、むかしと完全にことなる

処は、いまは天皇の權威にむすびついた政治ではなくて、民衆という基盤に選挙のうえに政治が立っていることです。みんな話にはきいていても身にしみて理解して

いないのでないかということですが 一人一人は選挙と政治の関係をしんげんに考えてゆき、ほんだんして大事な一票を自分のものとして投票することにより立派な政治

が行なわれるのであります。明るく正しい選挙推進運動はすでに一〇年以上たっていますが、選挙に際して買収、供応などの悪質犯罪はなおおとをたちません。

候補者のみの問題でなく、選挙民の側においても反省を要する面が大いにあり、候補者に金を使わせない。金のかからない選挙の理想は、ふみにじられているのが現実であります。

また獄中の立候補者が堂々と当選したり、札付の問題人がゆうゆうと選出されるなどのことがらはこの明るく正しい選挙推進運動のあり方という基本問題について考えさせられるものがあります。

こゝにおいて本町も昭和三十七年四月以来、明るく正しい選挙宣言町として宣言されていきましたが、今回これが宣言の標柱を町内三ヶ所に建設し町民みなさんが、「明るく正しい選挙宣言町」標柱建設の精神をご理解下され、一段の自

香典返し

三月六日～四月十七日 社会福祉協議会へ

- 一金参千円也 故吉永 豊様73
- 星原 吉永 貞美殿
- 一金式千円也 故赤嶺キサ様
- 白金原 酒匂 盛隆殿
- 一金参千円也 故松元直義様 81
- 岩崎 松元 エイ殿
- 一金式千円也 故馬場キノ様 88
- 口山花 馬場 直殿
- 一金参千円也 故田中シゲ様 76
- 目木金 田中 重義殿
- 一金参千円也 故鉛山忠志様 52
- 高樋 鉛山 クミ殿
- 一金参千円也 故上野末男様 43
- 岩崎 上野みつゑ殿
- 一金五千円也 故田中スエ様 100
- 新生 田中 貞夫殿
- 一金式千円也 故米良ハル様 75
- 水流寺 米良 俊文殿
- 一金参千円也 故小坂カネチヨ様 82
- 中川原 小坂 篤夫殿
- 一金式千円也 故服部喜之助様 83
- 飛野 服部 重義殿
- 一金式千円也 故西 蔵吉様 73
- 城下 吉原 幸範殿
- 一金参千円也 故中栄之助様 77
- 増田 島中 キヨ殿
- 一金参千円也 故情松ワイ様 76
- 白金原 楠松 操殿
- 一金参千円也 故池之上次兵衛様 77
- 増田 池之上 馨殿
- 一金参千円也 故永倉門治様 56
- 森 永倉しず子殿

覚を切望する次第であります。

○始良町 選挙管理委員会
○明るく正しい選挙推進協議会